

明石市財政及び公共施設のあり方に関する検討会(公共施設第5回) 議事要旨

日 時	2026 年(令和 8 年)2月7日(土) 13:00~14:15
場 所	明石市役所南会議室棟 旧食堂スペース
出席者	石原会長、岡平委員、河田委員、瀬能委員、楠目委員、森田委員、小田委員、増田委員 ※齊藤委員、石山委員欠席
議 事	【審議事項】 (1) パブリックコメントの意見概要 (2) 第2期明石市公共施設配置適正化計画(案)
配布資料	資料1 パブリックコメントの意見概要 資料2 第2期明石市公共施設配置適正化計画(案) 資料3 第2期明石市公共施設配置適正化計画【概要版】(案)
事務局	総務局財務室財務担当(公共施設担当)

1 開 会

2 市長挨拶

- ・ 2年間、財政白書及び公共施設配置適正化計画でお世話になり、御礼申し上げたい。
- ・ 財政白書については、中学校区ごとに実施しているタウンミーティングの参加者に配布し、明石の財政のことも踏まえつつ一緒にまちづくりを考えてもらうなど、非常に役に立っており、本当にありがたい。
- ・ 中学校の先生からは公民の授業で活用していることもお聞きしている。
- ・ 公共施設については、施設の老朽化が全国共通の課題となっている中、計画の基本理念で「安全・安心で持続可能な公共施設をみんなで、『対話と共創で』魅力ある明石を未来へ」を掲げていただいております、心に響くフレーズである。
- ・ 様々な公共施設のあり方検討を現在行っているが、地域住民が必要と思う場所を作っていくことがこれからの公共施設には大事で、行政が一方的に進めるのではなく、地域の皆様と一緒に考えて作っていき、作った後は地域の方に育てていただくパブリックスペースとすべきと考えている。
- ・ 対話と共創の良い事例として、昨年4月に二見図書館を開設したが、どこに何を置いたら良いか、どのくらいの本がいるかなど、地域住民と一緒に検討してきた。最終的には実際に施設でどういった取組を行うのか対話を重ねたのだが、とある高校生が「自分たちが意見を言ったから、こういった場所ができたのですね。毎日図書館に来ます」と言ってくれて、自主的に子どもへの読み聞かせをするなど、他にも人々のつながりを生む様々な取組が行われている。
- ・ 将来にわたり持続可能な施設運営ができるよう、施設総量の縮減や管理運営費等の削減に取り組み、将来世代に過度な負担とならないよう引き継いでいく必要がある。
- ・ このため、公共施設の整備や管理運営を行う上で、産官学民の多様な主体との対話と共創により新たな価値を想像し、市民サービスの質の向上を図り、“もっと”やさしいまちづくりに取り組んでいく。

3 議事

- (1) パブリックコメントの意見概要
- (2) 第2期明石市公共施設配置適正化計画(案)
※事務局から資料説明(資料1、資料2、資料3)

[質疑応答]

(会長)

- ・ ただいまの説明に対して、ご質問やご意見はあるか。

(A委員) ※欠席のため、事前打合せ時における意見をまとめたもの

- ・ 施設の廃止は、市民にとって突然の知らせのように感じられ、不安や反発が生まれることをこれまでも見聞きしてきた。
- ・ そのため、基本理念にある対話と共創を大切に、魅力ある明石の未来をみんなで話し合いながら築いていくことが重要である。施設の縮減となると、あまり考えたくないことだが、市が一方的に決めるのではなく、みんなで意見を出し合い、納得して進めることが大切。このためにも、対話と共創を通じた取り組みが欠かせない。

(B委員) ※欠席のため、事前打合せ時における意見をまとめたもの

- ・ 資料2のP15に市民一人当たりの施設の保有面積(中核市比較)のグラフについて、都市部ほど保有面積が小さくなる傾向にあるが、小さいから良いというものではなく、施設には人の配置等も必要で、今後人口減少により人材の確保も難しくなることが予想される。
- ・ 急に施設を減らすと市民生活への影響が大きいので、しっかりと施設に対して市が責任を持ち、計画に沿った取組を進めていく必要がある。

(C委員)

- ・ 計画については、何度も修正を重ねながら作成されており、きれいに見やすくまとめられている印象。見やすさや分かりやすさについても市民目線で良いのではと感じた。

(D委員)

- ・ これだけの分量を分かりやすくまとめられている。
- ・ 自分の仕事で民間企業において社内のガバナンスを見直そうとしている案件があり、市と同じように計画や数値目標を立て、現状の可視化からPDCAサイクルを回していくのだが、会社の場合は従業員が経営者の指示を受けてPDCAサイクルに関わるが、行政の場合は市民がどの程度関わるができるのか。市民に関わりづらいつ感じたり、実際に市民が参画できるのか少し気になった。
- ・ サービスコーナー廃止の議論の際に、証明書のコンビニ交付の話が出ていたが、IT弱者と呼ばれる方が相当数いるなど会議後に感じるがあった。高齢者だけでなく大学生でもパソコン自体をさわったことがない方も実際にいて、施設がなくなることによってそういった方々をどのようにサポートしていくのが課題である。

- ・ 勤労福祉会館の議論で会議室が空いているといった話があったが、個人的に施設の会議室を借りる機会が昔からよくあったが実際に使ってみるとすごく便利で、やはり市民が施設の存在をそもそも知らなかったりするの、市民に計画も含めて興味を持ってもらい、市がしっかりと情報共有していくことが課題だと感じた。

(E委員)

- ・ 一見すると分厚い内容だが、色々な情報が入っており自分の生活に近い施設を見るだけでも、市民が興味を持つきっかけになるのでは。
- ・ 自分とあまり関わりのない施設でも関わっている方々にとって思い入れがあることも今回の検討会で分かったの、それらを踏まえて対話と共創により市民と話をしながら今後取組を進めていく必要があると感じた。

(F委員)

- ・ **資料3**のグラフの文字が小さい。また、P3の重点施設のフォントが大きくて読みづらいので、フォントを前ページと揃えて空いたスペースに市ホームページのQRコードや施設の写真を入れたら読みやすくなるのではないか。
- ・ 18の重点施設については個別の検討会であり方検討を行うものも多いので、この公共施設配置適正化計画を踏まえて議論を進めていってもらいたい。

(G委員)

- ・ これまでの検討会で話し合われた内容が盛り込まれている。検討会が終わっても公共施設のこれからに関心を持って生活したい。

(H委員)

- ・ 議論してきた内容がしっかりと反映されている。計画の内容を市民に理解いただけるよう、分かりやすく説明を行っていく必要がある。本庁舎やごみ処理施設、旧市立図書館跡地等の大きな施設整備を予定されているので、説明にあたってはその点も踏まえることが必要。実際にどのように計画の取組が進んでいくのか見守っていききたい。

(I委員)

- ・ 情報が多くまとめるのが大変だったと思うが、分かりやすくまとめていただいている。
- ・ **資料3**の2について、人口推計のグラフが、**資料2**のP11では凡例が示されているが、概要版では示されていないので示した方が分かりやすい。また、財政状況のグラフの太字がつぶれて見づらい。

(会長)

- ・ 良い計画ができたので、しっかりと説明を行っていくことが大事。パブリックコメントの結果についても市議会報告を行うとのことだったが、明石市の取組については、市職員ほど十分な情報を持っていない方が多いこともありエモーショナルな指摘も一部出ているのが実状。市の立場でしっかりエビデンスを示して説明を尽くす必要がある。
- ・ 計画の後ろにワークショップの資料も掲載いただいているが、分厚いと揶揄するのは簡

単だが、手間暇かけてここまでの内容に集約されたことも抑えるべきで、非常に優れた内容となっている。

- ・ 公共施設配置適正化計画についても財政白書と同様に市議会議員への説明などにおいては紙媒体でお渡しし、議員の皆様にも計画内容を意識して今後質問いただけるよう活用いただきたい。計画策定の背景を分かっている人には資料3は分かりやすくまとめられているので、あわせて活用してはどうか。
- ・ 教育委員会の学校施設長寿命計画の検討会にも入っており、学校施設の延床面積の縮減は計画で挙げられていないが、市全体の財源を配分するうえでも本当によく練られた内容だと思う。事務局のご尽力に感謝したい。
- ・ 本日の意見の反映の仕方については、私が事務局と調整し、決定することで一任いただき、反映した計画案を検討会での検討結果として市に報告するとともに、委員の皆さんにも改めて送付することよろしいか。

(委員一同)

- ・ 意見なし。

(会長)

- ・ 本日が2年間にわたり財政白書と公共施設配置適正化計画の審議を行ってきた本検討会の最終回となるので、2年間で振り返り、全委員より今後に向けた提言や検討会の感想等、最後にコメントをお願いしたい。

(A委員) ※欠席のため、事前打合せ時における意見をまとめたもの

- ・ 昨年度、財政白書を作った反響はどうだったのかが気になっている。

(事務局)

- ・ 財政白書については、冊子や広報紙、ホームページで、市民の皆さんに財政状況をお伝えしてきた。市民の方からは、「これまであまり知らなかった財政の現状や見通しがよく理解できた」「財政に関心がなかったが興味を持った」といった声をいただいている。
- ・ 財政白書を作成している近隣の自治体が少ない中、市長もさまざまな場面で財政白書を紹介している。冒頭の挨拶でもあったとおり、現在、市長と対話する地域編のタウンミーティングで参加者に財政白書を配布し、財政状況を理解してもらうために活用している。
- ・ 先ほど説明した資料3の計画概要版は、公共施設の計画が理解できるように作成しているが、内容がやや難しいため、財政白書の資料編を活用して、よりわかりやすく簡潔に説明したいと考えている。公共施設配置適正化計画と財政白書を連動させながら、取組状況などが見える化することが重要であると考えている。

(C委員)

- ・ 2年間すごく勉強になった。財政白書は委員の意見を緻密に反映いただき、丁寧に作業いただいて完成しており、中学校における活用の事例を聞くと大変嬉しく思う。
- ・ 公共施設は非常に難しかった。財政白書で確認した数字をもって公共施設の再配置や

削減を具体的に考えていくのだが、個別施設への考え方は市民によって異なる。私自身も福祉施設について発言する機会をいただいたが、他の委員からすると初めて耳にする話だったり、普段の接点がなければ施設のことを考える機会もあまりないかもしれない。また、別施設の議論においては、稼働率が低いため施設は不要ではと思っても、施設を利用する方にとっては当然意味があり、人によって受け止めも違うため、優先順位をつけて公共施設の適正化を進めていくことは本当に難しいと感じた。市民の不安を解消しつつ適正化に向けた丁寧な検討を今後進めてほしい。

(D委員)

- ・ 2年前に公募委員に応募して良かったと思う。明石市に引っ越して10年経つが、これまで明石市のまちづくりに関わっている感覚があまりなく、もやもやしていたが、そこからこのように明石市役所に来ることも増えて、明石への愛着が深まった。
- ・ 市長のコメントで、公共施設を作るだけでなくどう活用するかが大事とあったが、市役所が色々なアイデアを出しつつ、様々なデータや市民の気持ちを汲み取りながら計画を立てて取組を進めており、それらが市民の日々に暮らしにつながることを知れて良かった。
- ・ 今後も市民としてできることを模索していきたい。

(E委員)

- ・ 市役所職員として、委員に応募させていただいたが、担当業務とは関係ない領域だったが取り組んでよかった。市民の方も、資料を見ていただくことで、明石市について愛着を深めていただけたら嬉しい。
- ・ 職員として参加させていただいたので、今後は今回議論した内容を一つの軸として、良い方向に向かっているのかしっかり見極めながら、業務にも活かしていきたい。

(F委員)

- ・ 2年間でお金が有限だと実感した。限りある中で資産管理を行い、市民サービスを提供する必要があるが、ある人にとっては不便につながることをしないといけない可能性もある中で、対話と共創により取組を進めていくことが大切。
- ・ 人口減少や施設の老朽化、職員が今の状況をしっかり理解して、前例主義ではなく本当に必要なことなのか、市民のためになることなのかを考えていかなければならない。

(G委員)

- ・ 学生の立場で参加したが、普通の大学生が経験できないことを体験できた。財政白書は中学校の授業など様々な場面で活用されていることを知り、自分が一年間やってきたことが多くの方に知ってもらえているのだと嬉しく思う。
- ・ 意見をうまく伝えられないこともあったが自身の成長にもつながる貴重な機会だった。

(H委員)

- ・ 昨年1年間は大きなお金のマクロ視点で、今年は個別施設に至るミクロ視点の両方で議論できてよかった。マクロ視点では、予算を1パーセント削る大変さが分からなかったが、ミクロ視点の議論で個別の予算に対してそれぞれ必要としている市民がいることが分か

ったし、民間企業と違い予算を簡単に動かさないことも実感できた。公共施設の実状を丁寧に説明いただき、簡単に施設を削減するのではなく職員が対話と共創により丁寧に検討を進めていただいていることが伝わってきた。

- ・ 今後地元の自治会等でもこれらの話を広めていきたいし、市の財政への理解や愛着も深まったので、より多くの方にこういった公募市民を務めていただくと良いなと思う。

(I委員)

- ・ 元々大学の先生から紹介されて検討会に参加したが、参加したことで明石市の財政等の情報を多く知ることができ、学識経験者など人生経験豊富な方々とも関わることができて貴重な経験ができた。
- ・ 市長のコメントで中学校において財政白書が使われているとあったが、自分の中学生の頃を思い出して、授業を受けていた立場から今度は授業で使う資料を作って受け継いでいく側に回ったのだと実感できた。

(会長)

- ・ 公共施設配置適正化計画について、市民の代表である議会の議員の皆様きちんとして読んでいただき、計画に基づいて質問いただくと非常に好ましいのではないかと。
- ・ しっかりとした検討資料を議会に提供していない状況で、議員から計画内容に沿った質問をしてもらおうとするのは議会に対して失礼にあたるが、明石市は、逆に市民目線で読み込める資料を作成しているので、この意義をぜひ行政も議会も理解したうえで議論いただくことが、市民との対話や共創の第1ステップとなるのでは。
- ・ 市長がたびたび言われる共創は英語で言うとco-creationだが、co-creationはPDCAサイクルに合わせて区分できる。例えば、計画段階はco-design、実行段階はco-productionが一般的である。共創は様々な局面の展開が大事だが、もう一つ、co-destructionという概念があり、一緒につぶしましようというのも共創にあたる。
- ・ 学校教育系施設は今のところ延床面積を縮減するという、統廃合の議論には至っていないが、将来を考えると実施しなければいけない事態がやってくる確率は小さくないと思う。どう廃止するか、統合するかの議論が必要だが、市民や議会が行政と一緒にそれらを考えることも共創の1つであるという理解をこの第2期に広めることが大切である。共創は創る側面ばかり注目されるが、PDCAサイクルのCheckやActionの段階ではco-destructionの概念がきちんとあり、それも市長の掲げる共創にあたる。
- ・ 将来的に、施設を廃止する議論の際に、なぜそれが共創にあたるのかという批判も出ると思うが、単に行政が主導で一方的に施設を廃止するのは問題だが、市民と一緒に財政状況を踏まえながら、例えば学校の統廃合について一緒に検討することも共創であると認識を少しずつ広げていくことが今後の明石市の財政、公共施設やインフラのことを考えると必要ではないかと感じた。

4 その他(事務連絡)

5 閉会